



Contents

- 1 体育会陸上競技部 優秀な結果を残す!!
- 2 体育会女子バレーボール部 リーグ4部昇格決定!
- 3 駐日南アフリカ共和国公使が浦安キャンパスを訪問
- 4 歯学部成績優秀者表彰
- 5 ホスピタリティ・ツーリズム学部 社長講座
- 6 オープンキャンパス開催報告
- 7 学内企業セミナー

体育会陸上競技部 関東学生陸上競技対校選手権大会 優秀な結果を残す!!

5月19日から22日にかけて、第101回関東学生陸上競技対校選手権大会が国立競技場および日本大学陸上競技場で開催され、男子2部において高野涼選手（経済学科4年）がハンマー投と砲丸投で見事2種目の優勝、さらに円盤投でも3位入賞を取めた。

また、荒木勇輝選手（日本語学科2年）が砲丸投3位入賞、池上拓希選手（日本語学科2年）が三段跳で5位入賞、山崎健太選手（日本語学科2年）が混成（十種競技）で3位入賞、同種目で片桐秀人選手（日本語学科3年）が6位入賞を取めた。

今大会は、天候が安定しないなかではあったが、日ごろの練習の成果

が結果に結びついた大会となった。また、今回の会場の一部は東京オリンピック2020で新しく生まれ変わった国立競技場とあって、選手たちは気持ちが高まるなか試合に臨んだ。

ハンマー投、砲丸投の2種目で優勝を取めた高野選手は、「1年生から優勝することを目標にしていた関東インカレで、今回2種目で優勝できたのはとても嬉しかったです。しかし、記録としては自己ベストではなかったため、さらに良い記録が出せるよう努力していきます」と語った。



左から片桐、山崎、高野、荒木、池上
また、今大会の結果を受けて川幡俊行監督は「今大会は日頃の練習の成果が出せたと思います。もう少し記録が期待できる選手もいるので、秋シーズンに向けて練習していきます」と意気込みを語った。

今後も体育会陸上競技部の活躍に目が離せない。

体育会女子バレーボール部 全日本バレーボール大学選手権大会の出場を決める!

6月22日から24日にかけて行われた「2022年度第41回東日本バレーボール大学選手権大会（東日本インカレ）」でベスト8進出を果たし、今年



順天堂大学との試合前

12月に開催される全日本バレーボール大学選手権大会（全日本インカレ）への出場を決めた。

初戦は、宇都宮大学にストレートで勝利し、2回戦では関東大学バレーボールリーグ1部の順天堂大学と対戦し、フルセットまでもつれ込む接戦の末、勝利を取めベスト8入りを決めた。

続いて準々決勝では、関東大学バレーボールリー

グ1部で 2022年春リーグ優勝校の東海大学と対戦し、善戦はしたものの1-3とあと一歩のところまで惜敗した。太田豊彦監督は、「目標にしていたベスト8は達成したが、まだまだ上をめざせるチーム。全日本インカレに向けて準備をしていきたい」と意気込みを語った。

創部から4年で、全日本インカレの出場権を獲得したことは、選手たちの自信につながり、これからの活躍に目が離せない。

体育会女子 バレーボール部

関東大学バレーボールリーグ4部昇格決定!

4月24日から5月28日にかけて行われた「2022年度関東大学バレーボール春季リーグ」女子5部Aでは、1セットも落とすことなく、全5試合すべてストレートで勝利を収めた。

順位決定戦では、同リーグ女子5部Bで首位となった上智大学と対戦し、ここでも圧倒的な強さで勝利し、関東大学バレーボールリーグ4部昇格を決めた。

キャプテンの花井雅選手（日本語学科4年）は、「新型コロナウイルス感染症の影響で思うように練習ができない時期もあったが、チーム内でミーティングを重ねコミュニケーションを図ることで結束力が強くなったと思う。また、練習が再開してからは、ミーティングで話し合った改善事項が活かせるよう集中力を高めてプレイした。その結果、チーム一丸となって試合に臨むことができ、すべての試合において、ストレートで勝利したことは今後の自信にもつながると確信している。この2年間、リーグが開催されない時期もあり、私たちが4年次に関東1部まで昇格させるという夢は途絶えてしまったが、最後の秋季リーグで3部昇格を決め、しっかり後輩につなぎたい」と語った。



試合時の様子

アジアU20女子バレーボール 選手権大会に向けた

U20日本代表候補に本学から3人選出!

5月23日から27日にかけて、NECレッドロケッツ玉川アリーナ（神奈川県川崎市）で、「第21回アジアU20（ジュニア）女子バレーボール選手権大会」に向けた選抜候補選考合宿が開催された。

本学からは、女子バレーボール部の堤亜里奈（英米語学科1年）、都築愛未（日本語学科1年）、永井いづみ（英米語学科1年）の3人が選出された。

今後は、選抜候補の18人から6月末に実施される最終合宿に12人が選ばれ「第21回アジアU20（ジュニア）女子バレーボール選手権大会」が開催されるカザフスタンへ出発する。

堤亜里奈選手は、「選抜候補に入ったことは素直に嬉しかった。オー

ルラウンダー選手として、自分ができること、自分しかできないことを

しっかり発揮して、代表選手になりたい」と意気込みを語ってくれた。



左から永井、堤、都築

駐日南アフリカ共和国大使館のGhaleeb Jeppie公使が浦安キャンパスを訪問

6月2日、駐日南アフリカ共和国大使館 Ghaleeb Jeppie科学イノベーション教育担当公使が浦安キャンパスを訪問した。今回の訪問は、公使より「南アフリカでは大学との共同研究や姉妹校提携などの連携強化を積極的に図っているため、この機会に明海大学の紹介および浦安キャンパスの案内をいただけないか」との要望があり実現した。

はじめに安井利一学長から来学への感謝の意が述べられ、その後、浦安キャンパスの各学部の学びについて、担当教授によるプレゼンテーションが行われた。公使も熱心にメモを取りながらプレゼン内容に耳を傾け、積極的に教授陣とディスカッションを交わすなど、貴重な意見交換の場となった。

またプレゼンテーション後は、ホ



浦安キャンパスを視察するGhaleeb Jeppie公使

スピタリティ・ツーリズム学部グローバル・マネジメント メジャーの学生たちとの交流の場が設けられた。学生たちの出身国や学修内容などについて尋ねられ、自らの体験を交えつつ、気さくに歓談する姿がみられた。

最後に外国語学部ケイコ・ナカムラ教授の案内のもと、多言語コミュニケーションコモンズ（MLACC）や、教職課程センター（METTS）、メディアセンター（図書館）、講義室など浦安キャンパスの各施設を視察された。

地域学校教育センター主催

大学生と話そう会2022

5月29日、第1回「大学生と話そう会2022」が開催された。このイベントは、高校生が在大学生と交流することで大学での勉強や学生生活について理解を深め、連携高校との関係をより強固にすることを目的とし

て、地域学校教育センターの主催で2018年度から実施している。

今回は、都立飛鳥高校、都立竹台高校、都立南葛飾高校、都立葛西南高校、千葉県立浦安高校の5校から1、2年生73人が参加。同時開催さ

れているオープンキャンパスで在学生から話を聞いたり、学食を体験するなど本学の学びの特色や学生生活を知ってもらい良い機会になった。

昼食後は、本学の教職課程を履修している学生と外国人留学生がガイド役を務め、海洋資源・貧困・教育をテーマにしたグループディスカッションを実施。現状の認識から解決策まで、世界規模かつ高いレベルでの議論が繰り広げられ、大いに盛り上がった。また、将来教員を目指している学生にとっては、高校生とコミュニケーションを取りながら指導をするという実習さながらの体験となった。

本イベントは10月23日にもオープンキャンパスと同時開催予定。明海大学はこれからも積極的に教育の場を提供することで地域貢献を行っていく。



盛り上がりを見せたグループディスカッション

歯学部成績優秀者表彰

5月10日および12日、坂戸キャンパスで「2022年度歯学部学業成績優秀者表彰式」が行われ、前年度の学

業成績が優秀かつ心身ともに健康であり、品行方正な各学年上位10人の学生（2年生については、当該年



6年生の受賞者ら ※集合写真は、撮影のためマスクを外しています。

度入学者の上位10%)が表彰された。これは学生の修学意欲の向上を図ることを目的に毎年行われているもので、今年度で38回目を迎える。表彰式では、選

ばれた52人の学生に、申基結歯学部長から表彰楯が授与され、激励の言葉が贈られた。

入学から毎年受賞しているパーフェクト受賞者の1人である宮島香奈さん（歯学部6年）は、「日々の積み重ねをこのような形で評価していただけたことを大変嬉しく思います。私たちが毎日安心して通学できるように環境を整えてくれた大学関係者の皆様のおかげで、コロナ禍という困難な状況の中でも学びを継続することができました。今後は国家試験合格に向け、全力を尽くします」と受賞の喜びと今後の目標を語った。

パラオ共和国での日本人戦没者遺骨収集事業に坂教授らが従事

5月17日から29日までの13日間、パラオ共和国での日本人戦没者遺骨収集事業に歯学部歯科法医学分野所属の坂英樹教授、岩脇淳志講師が参加し、大学院歯学研究科3年の二反田淳春先生が同行した。

この事業は厚生労働省が「戦没者遺骨収集推進戦略」に基づき実施している戦没者の遺骨収容事業の一環で行われており、未帰還である日本人戦没者のご遺骨を、歯科法医学的・人類学的な見地から鑑定を行ったうえ、日本に帰還させるために坂教授らが派遣された。

海外戦没者（硫黄島、沖縄を含む）は約240万人にのぼる。令和3年度末

の時点で未収容の御遺骨約112万柱のうち約23万柱が相手国・地域の事情により収容困難な状況にある。また、平成28年度から令和6年度の9年間は集中実施期間と定められていたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の状況に配慮しつつ、可能な範囲で事業が進められている。

今回の派遣で

坂教授は、慰霊事業人類学専門員として人種鑑別を行い、ペリリュー島で10柱を確認した。



遺骨収集作業の様子

浦安キャンパス 外国語/経済/不動産/ホスピタリティ・ツーリズム/保健医療学部

オープンキャンパス 9:30~15:30 **要予約**

**7月10日(日)、7月24日(日)、8月7日(日)、
8月21日(日)、9月25日(日)**

One Dayセミナー **要予約**

**7月17日(日): 経済学部
9月11日(日): 不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部**

お問い合わせ/企画広報課 TEL 047-355-1101

坂戸キャンパス 歯学部

オープンキャンパス 10:30~15:00 **要予約**

7月17日(日)、8月21日(日)、9月25日(日)

**お問い合わせ/歯学部入試事務室
TEL 049-279-2852**

予定は変更になる可能性があります。
必ず本学公式HPでご確認ください。

<https://www.meikai.ac.jp>



ホスピタリティ・ツーリズム学部 社長講座

JTB取締役相談役らが講演

ホスピタリティ・マインドを必要とするサービス業に高い就職率を誇るホスピタリティ・ツーリズム学部(以下、HT学部)では、企業が求める人材の育成を目的に、実践教育に力を入れている。

HT学部の授業科目「特別講義」は、通称社長講座と呼ばれ、その名のとおり日本のホスピタリティ業界を代表する企業の経営トップを招き、オムニバス形式で業界の動向や仕事に対する考え方を学ぶのが目的である。新型コロナウイルス感染症の流行によってホスピタリティ業界は大打撃を受けたが、その一方で新しい社会に適応するためかつてないスピードで変革が起きている。その中心で陣頭指揮を執る人物から直接話を聞くことができるため、将来ホスピ

タリティ業界への就職を考えている学生にとっては貴重な機会となっている。4月から6月は、株式会社日テレイベント常務取締役の今泉浩美氏、株式会社JALスカイ代表取締役社長の屋敷和子氏、株式会社JTB取締役相談役の田川博巳氏、株式会社WDI代表取締役社長の清水謙氏、株式会社帝国ホテル代表取締役社長の定保英弥氏をはじめとする講師陣を招いて講義が行われた。

6月23日に行われた全日本空輸株式会社の講義では、上席執行役員の西嶋直子氏から「国際線の需要はコロナ前に近いところまで戻ってきている。今後はいかにホスピタリティを実践し、提供するサービスの質を向上できるかが大切。コロナ禍で生じた規制がなくなって、これからさ



全日本空輸の西嶋上席執行役員らに盛り上がる航空業界を楽しみにしてほしい」と学生にメッセージが送られた。

今後は、7月7日に株式会社加賀屋代表取締役社長の小田與之彦氏、14日に株式会社ワンダーテーブル代表取締役社長の秋元巳智雄氏を招いて講義が行われる。

浦安キャンパス 教育後援会

関東地区教育懇談会を開催

6月18日、浦安キャンパス教育後援会主催の関東地区教育懇談会が浦安キャンパスで開催され、当キャンパスに在籍する1、4年生の保護者が出席した。

教育懇談会の目的は、保護者に対して大学の支援体制や学生の成績な

ど大学生活の様子を知ってもらい、大学と保護者とのコミュニケーションを密にすることで学生の支援をすることにあります。

全体会では黒田貴之教育後援会会長からの挨拶に続き、安井利一学長から「思考力、判断力といった学びの

基礎力、そして社会で自分の夢をつかむ力をしっかりと育て、学生の成長を保護者の皆様と共有できることが、われわれの最大の喜びです」と挨拶があり、併せて大学の施設について、スライドを使って紹介した。

また、事務局からは大学の近況報告として修学支援年間スケジュール、海外留学・海外派遣、体育会活動状況および就職支援行事スケジュールなどについて報告がなされた。

その後、体育館に学科・担当教員ごとにブースを設けて個別面談会を実施。授業の出欠や成績状況の確認など、担当教員に相談ができる個別面談は保護者の満足度が高く、「大学での様子や成績について担当の先生から直接お話を聞いてよかった」「就職活動状況と併せて大学のキャリアサポート体制がわかり大変安心した」などの声が聞かれた。



個別面談会の様子

オープンキャンパス開催報告

4月から6月にかけて、歯学部を含むすべての学部・研究科を対象とした「オール明海」でのオープンキャンパスを、浦安キャンパスを会場に3回開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度に引き続き事前予約制での実施となった。

今年度のオープンキャンパスでは毎回異なるテーマを掲げ、テーマに沿った内容の特別プログラムを実施している。6月19日は「憧れのじぶん 先輩に聞く大学生活編」をテーマに、在学生がキャンパスライフについて話す「学生トークライブ」やインターンシップに参加した学生が経験談を話す「インターンシップ

について聞いてみよう!!」を実施したほか、課外活動を行う学生とのフリートークエリアを設けた。参加者が入学後の自分の姿をイメージしやすいプログラムとあり、参加者からは好評の声が聞かれた。また、入試概要についていち早く解説する「入試ガイダンス」を実施。2023年度入試から新たに始まる「総合型選抜 になりたいじぶん入試」の説明では、メモを取りなが

ら話を聞く参加者が多く見られ、関心の高さがうかがえた。

次回7月10日のオープンキャンパスでは、10月の入試に向けて総合型選抜の入試対策講座がスタート予定。引き続き、今後も充実した内容のプログラムを設定し、満足度の高いイベントを実施していく。



好評を博した学生トークライブ

One Day セミナー開催

浦安キャンパスの全学科を対象としたOne Dayセミナーを5月15日に開催し、体験授業をはじめとする各学科の学び魅力を伝えるプログラムを実施した。One Dayセミナーは少人数制での開催のため、参加者が在学生や教員と深くコミュニケーションをとれることも魅力のひとつ。外国語学部英米語学科のセミナーで実施された「英語で楽しくコ

ミュニケーション」では、参加者とネイティブスピーカーの教員や学生スタッフがお互いに英語で質問をしながら、コミュニケーションを楽しむ様子が見られた。また、保健医療学部口腔保健学科のセミナーでは、「学科内施設見学」を実施。在学生が実習室や講義室などの施設を案内しながら自身のキャンパスライフを紹介し、参加者とコミュニケーションを深めていた。

参加者からは「学科について詳しく聞くことができとても魅力を感じた」「興味深い授業を体験できて楽しかった」などの感想が聞かれた。

各学科の開催内容は右記のとおり。



英米語学科One Dayセミナーの様子

■外国語学部日本語学科

学科紹介、日本語専攻模擬授業「日本語教育実習」、グローバル・スタディーズ専攻模擬授業「コミュニケーション入門」

■外国語学部英米語学科

学科紹介、ミニレクチャー「ワード・ポリティクス:言語と国際政治」、英語で楽しくコミュニケーション

■外国語学部中国語学科

学科紹介、体験授業「知って得する中国経済」「ゲームでマスター!中国語発音」、在学生インタビュー

■経済学部

学科紹介、体験授業「企業どうしの「競争」って、どうして重要?」

■不動産学部

学科紹介、講義「宅建取得のメリットと合格法」、学生座談会

■ホスピタリティ・ツーリズム学部ビジネス&プロフェッショナル・コミュニケーションメジャー(BPCM) / デジタル・イノベーションメジャー(DXM)

メジャー説明、BPCM体験授業「ホテルの種類」、DXM体験授業「ホスピタリティ・ツーリズム業界のデジタル・トランスフォーメーションとは」

■ホスピタリティ・ツーリズム学部グローバル・マネジメントメジャー

メジャー説明、体験授業「Marketing in the Hospitality Industry」

■保健医療学部口腔保健学科

学科紹介、体験授業「口腔を守る唾液のパワー」、先輩からのメッセージ、学部内施設見学、個別相談

学内企業セミナー 明海生を積極採用する企業を招く

5月24日、25日、6月9日、10日の4日間、浦安キャンパスで4年生を対象とした学内企業セミナーが開催され、延べ123人の学生が参加した。このセミナーは、様々な企業の採用担当者が会社概要・仕事内容・採用情報などを学生に直接伝える場であり、例年多くの学生がここでの出会いをきっかけに就職内定を獲得している。

明海生を積極的に採用したい多くの企業から本セミナーへの参加希望の申し入れがあり、商社、IT、小売、福祉、不動産など多岐に渡る業種の企業64社が参加した。

熱心にメモを取りながら企業の話聞いていた学生たちからは「直

接、企業の方に仕事内容や職場の雰囲気などを質問できたので有意義だった」「採用スケジュールや採用人物像などの詳しい話をじっくりと聞くことができた」という声などがあつた。本学では学生の就業意識を高めるために1年次から必修科目としてキャリア教育の基礎を学修し、4



採用担当者の話を熱心に聞く学生たち
年間を通したキャリア形成教育を行っており、今後も万全の体制で学生たちのキャリアサポートをしていく。

インターンシップガイダンス

5月17日、今夏のインターンシップへの参加を検討している学生を対象としたインターンシップガイダンスが開催され、340人の学生が参加した。

ガイダンスでは、近年のインターンシップの状況や参加する意義等

に続き、本学のインターンシッププログラムについての説明を行った。併せてインターンシップへ参加が決定した学生を対象としたマナーなどの「事前研修」およびインターンシップ終了後に実施する「報告会」の案内をした。



真剣に説明を聞く学生たちの様子

インターンシップガイダンスに参加した学生は真剣な表情で説明を聞き、メモを取る姿からは就職活動に対する高い意欲が感じられ、「インターンシップを通

して就職を希望する業界の理解を深めたい」「普段、接する機会の少ない社会人とのコミュニケーションに慣れ、今後の就職活動に活かしたい」といった声が聞かれた。一昨年、昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でインターンシップへの参加が困難であったが、今年度は浦安市役所をはじめとする18研修機関で貴重な体験を活かし、実り多い夏になることを願っている。

研修機関（予定）

浦安市役所、千葉県警察（浦安警察署）、セラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル、ホテルオークラ東京ベイ、ヒルトン東京ベイ、ホテルニューオータニ幕張、ラフォーレリゾート修善寺、ホテルエミオン東京ベイ、千葉トヨタ自動車、ダイハツ千葉販売、リンベルなど